

PAT-NO: JP404239970A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 04239970 A

TITLE: DELINQUENCY CONTROL SYSTEM FOR FOREIGN CURRENCY LOAN

PUBN-DATE: August 27, 1992

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

TAKAHASHI, SHINYA

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

NEC CORP

COUNTRY

N/A

APPL-NO: JP03006746

APPL-DATE: January 24, 1991

INT-CL (IPC): G06F015/30, G06F015/22

ABSTRACT:

PURPOSE: To discriminate the reason for the delinquency by providing the delinquent control file showing that the delinquency is not caused by the negligence in the operation on the side of the bank and the transaction control file holding necessary record items.

CONSTITUTION: When the token payment for the loan can not be performed on the scheduled due data, the amount of the token payment is defined to be 0 and transactions that other due dates, etc., are registered are inputted from a terminal equipment 3. A transaction control file part 11 judges that the token payment is not on the side of the schedule and registers the occurrence of the delinquency and the next information for the input in a transaction control file 21. At the same time, the transaction control file control part 11 delivers the information about the delinquency to the delinquency control file control part 13 and registers that the token payment is delayed in the transaction in the delinquency control file 22, based on the information.

COPYRIGHT: (C)1992,JPO&Japio

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平4-239970

(43) 公開日 平成4年(1992)8月27日

(51) Int.Cl.⁵

G 0 6 F 15/30
15/22

識別記号

Z 6798-5L
7218-5L

片内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1(全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平3-6746

(22) 出願日 平成3年(1991)1月24日

(71) 出願人 000004237

日本電気株式会社
東京都港区芝五丁目7番1号

(72) 発明者 高橋 信哉

東京都港区芝五丁目7番1号日本電気株式
会社内

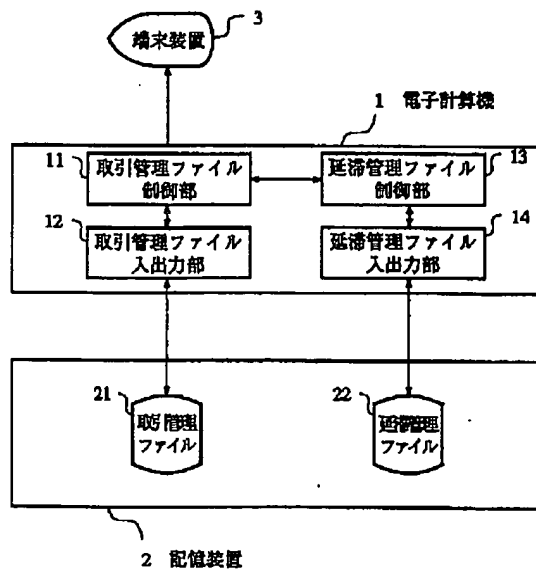
(74) 代理人 弁理士 内原 晋

(54) 【発明の名称】 外貨貸付の延滞管理方式

(57) 【要約】

【構成】延滞が銀行側のオペレーション忘れでないことを示す延滞管理ファイルと、延滞が即座に解消された場合に通常の取引の流れに戻すために必要なレコード項目を保持する取引管理ファイルとを有することを特徴とする外貨貸付の延滞管理方式。

【効果】オペレータの入力忘れによる延滞と顧客の預金勘定の残高不足による延滞との区別ができる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 延滞が銀行側のオペレーション忘れてないことを示す延滞管理ファイルと、延滞が即座に解消された場合に通常の取引の流れに戻すために必要なレコード項目を保持する取引管理ファイルとを有することを特徴とする外貨貸付の延滞管理方式。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は外貨貸付の延滞管理方式に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来、この種の管理方式では、内入予定日に予定額の内入取引を入力し、預金残高の不足等でエラーとなったとき、このままの状態延滞管理ファイルに登録していた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 上述した従来の外貨貸付の延滞管理方式では、内入のオペレーションはしたが、預金残高が不足であった等、顧客の責任によって延滞が発生したケースと、銀行側が内入のオペレーションを忘れたことにより延滞登録されたケースの判断がつかないため、残高、内入予定額については約定において正当な残高であり、この部分については新たに銀行間市場より調達を行う必要があるが、これらの情報を入力することができないという欠点がある。

【0004】

【課題を解決するための手段】 本発明の外貨貸付の延滞管理方式は、延滞が銀行側のオペレーション忘れてないことを示す延滞管理ファイルと、延滞が即座に解消された場合に通常の取引の流れに戻すために必要なレコード項目を保持する取引管理ファイルとを有している。

【0005】

【実施例】 次に、本発明について図面を参照して説明する。

【0006】 図1は本発明システムの全体概念図であり、電子計算機1と、記憶装置2と端末装置3とにより構成される。

【0007】 電子計算機1は取引管理ファイル21の情報に制御する取引管理ファイル制御部11と、取引管理ファイル21のデータの入出力を制御する取引管理ファイル入出力部12と、延滞管理ファイル22のデータの

入出力を制御する延滞管理ファイル制御部13と、延滞管理ファイル22のデータの入出力を制御する延滞管理ファイル入出力部14からなる。また、記憶装置2は、取引の現在の状態と過去の履歴を管理する取引管理ファイル21と、延滞が発生している取引を管理する延滞管理ファイル22からなる。

【0008】 図2は取引管理ファイル21のレコードレイアウトを示したものである。貸付の内入が予定されていた期日にできなかった際には、内入金額を0とし、他の次回期日等を登録する取引を端末装置3より入力すると、取引管理ファイル制御部11により、予定側の内入ではないことを判断し、延滞が発生した旨、及び入力された次回情報を取引管理ファイル21に登録する。同時に延滞管理ファイル制御部13に延滞の情報を渡し、これを基に延滞管理ファイル22に当該取引が内入の延滞となったことを登録する。

【0009】

【発明の効果】 以上のように本方式では、実際の内入が不可能な場合にも、期日等の入力を行えるようにすることにより、

(1) オペレータの入力忘れによる延滞と顧客の預金勘定の残高不足による延滞との区別ができる。

【0010】 (2) 金利更改、利息徴収等の3カ月、6カ月または12カ月といった定型的な期日サイクルを乱さず、即座に延滞が解消された際の正常なフローへの修復が容易になるという効果がある。

【図面の簡単な説明】

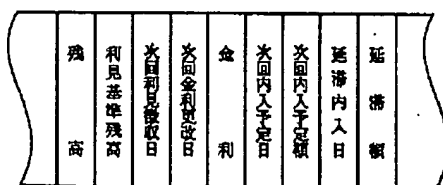
【図1】 本発明の全体概念図である。

【図2】 本発明における取引管理レコードのレコードレイアウトである。

【符号の説明】

- 1 電子計算機
- 2 記憶装置
- 3 端末装置
- 11 取引管理ファイル制御部
- 12 取引管理ファイル入出力部
- 13 延滞管理ファイル制御部
- 14 延滞管理ファイル入出力部
- 21 取引管理ファイル
- 22 延滞管理ファイル

【図2】



【図1】

